

## 踏み跡 < My mountains >

ハケ岳	阿弥陀岳から御小屋尾根へ	No.099
-----	--------------	--------

ついに念願かなって純毛のニッカー(3,000円)を買った。良いズボンで冬山の生活もいづらか楽になるのではなかろうか。新しい暖かなズボンで12月のハケ岳の野営を試みることにした。

ハケ岳の主稜線を歩き続けたので、次のステップとして、東西に長く延びる稜線を歩いて見たくなった。今回は、赤岳からハケ岳農場に向かって西に伸びる御小屋尾根を歩いて見ることにした。日曜日曜の連休を利用しての単独行。

昭和42年12月3日

昨晚の天気図では今日も駄目だろうと思ってのんびり起きたら、さにあらず。快晴とまでは行かないが、天気は悪くはない。支度はしてあるので、すぐに朝食をとり出発。

高尾10時18分発に乗り、塩山で急行赤石に乗り換えて茅野へ。茅野駅から見るハケ岳連峰は、予想に反して雪をあまりつけていない。茅野駅発14時40分のバスに乗ってから美濃戸口でバスを下車。(120円)15時35分行動開始。柳川沿いの道を遡っていく。時々振り返ると、北アルプスと中央アルプスの中間あたりが夕焼けに染まっている。美濃戸から柳川南沢に入り、行者小屋への道を進む。二俣から30分ほど入ったところに小さな岩屋を見つけた。もうしばらく進むと道は沢筋から離れそうなので、今宵の宿はこの岩屋に決定。時はすでに17時になろうとしている。大急ぎでツエルトを設営し食事の仕度に入る。

海拔2000mの野営、沢の中なので夕暮れの冷え込みは早い。

17時45分食事終了。ノートを開いて鉛筆を走らせていると、沢の瀬音だけがやけにかん高い。ほかには、時々聞こえる鉛筆の芯の滑る音以外は何の音もしない。静けさに驚きながらふと空を見上げると、星が一面に広がりチカチカと輝いている。18時30分就寝。

22時30分、寒くて目が覚めたらツエルトの一部がめくれて外の冷気が侵入していた。

昭和42年12月4日

起床4時50分、天気は快晴、朝食を済ませて6時10分に出発。南沢に沿って歩き、7時15分に行者小屋に到着(ここは海拔2350m)。ツエルトが二張だけあるが人の気配はない。

今回は趣向を変えて行者小屋から石室にダイレクトに突き上げるルートを選ぶことにした。

横岳西壁を左手に見ながら雪の少ない岩がちの急登一時間で赤岳石室に到着、8時15分。

夏に覚えた北アルプスの山々がなつかしく視界に入ってくる。槍からキレットを挟んで穂高への稜線が手に取るように近く見える。富士は雲に隠れて半分ほどしか見えない。

石室から赤岳への登りになってようやく雪らしい雪が現れ、やっとアイゼンの活躍の場ができた。

赤岳頂上(2899m)8時50分。山頂からの眺めは今更言うまでもない。妙高山群も姿を見せ、浅間周辺の山々、木曾殿越のクビレなどがくっきりと見える。キジを撃ったあと9時05分出発。

龍頭峰への下りは、南面ゆえに雪が少なく、岩肌へはばり付いた氷がさばきにくい。

中岳、阿弥陀岳ともに雪がほとんど見られない。権現岳は北面をこちらに向けているのでかなり白い。

阿弥陀の科尔10時15分、日向ぼっこをしながら昼食。眼下の立場川はもう真っ白に凍りついている。

阿弥陀岳(2805m)11時15分。西に真っ直ぐ伸びる御小屋尾根に入ると、しばらくは岩の多い急な下りが続くが、やがて雑木林の中の枯葉を踏みながらのpromenade。枯葉のざわめきを聞きながら南を見ると、権現岳と西岳が画面いっぱいの広がり。何度か見慣れたハケ岳とは違った感じで、特に権現岳の逞しさと西岳の優しいカーブが対照的で面白い。

あらためて西岳の大きさと味わいを見せられた感じがする。

御小屋山(2136.9m)を過ぎると急激に高度を下げ始める。ハケ岳農場に13時50分に到着。農場からのハケ岳の眺めもこれまた素晴らしい。僅かに残った行動食を全部平らげながら、しばし景観を楽しむ。

## 踏み跡 < My mountains >

サイロとサイロの間に広がる横岳と阿弥陀岳の特徴ある山容。日本にもこんな景色があったのかと驚きながらバス停への最後の歩き。

バスの窓からサイロの陰に去っていく山並みを見送ると、旅の終わりの感傷が走る。

茅野駅着15時05分。ラーメンを食べて(70円)、17時08分の急行アルプス赤石に乗って帰った。

これでハケ岳西面の主要な部分は歩いてしまった。これからは西岳周辺、東面の真教寺尾根、杣添尾根、県界尾根などを使って変わったアイデアを組んでみたい。有雪期が良いだろう。

以上

◆今回の山行に使用した食料を後日のためにメモしておく。

主食=餅入りラーメン(インスタントラーメン+切り餅4ヶ)

行動食=油で揚げたサツマイモの千切り、ピーナツ、チョコレート、キャンロップ

(これらを全部組み合わせて一日分が300グラムになるように工夫して袋詰めした)

冬山での食事は腰を下ろすことができない(立ったままで食べる)ことが多いので

一回ごとのパッケージ化しておくとう便利。

